

Speciality for Customer

PS - Innovation



2013年3月期 第2四半期決算説明会

2012年11月16日

株式会社プロシップ

代表取締役社長 今泉 智

JASDAQ
3763

目次

I 2013年3月期 第2四半期連結業績

II 2013年3月期 通期連結業績予想

I 2013年3月期 第2四半期連結業績

決算ハイライト

前年同期比:売上高 2.0%減、経常利益 33.9%減

- IT投資に対する慎重な姿勢から顧客の検討期間が長期化したことや、価格低減圧力が強いこと等から売上高は前年同期を下回る。
- 新システム環境及び海外における制度対応等に向けた、製品基盤の調査・研究活動の強化で研究開発費が増加したことから経常利益は前年同期を下回る。
- 上記の理由から、10月31日付けで、通期連結予想数値を修正。

(単位:百万円)

	2012年3月期 第2四半期	2013年3月期 第2四半期	前期比	
			増減額	増減率
売上高	1,720	1,686	▲ 33	▲2.0%
売上原価	717	703	▲13	▲1.9%
販売管理費	460	623	163	35.5%
営業利益	542	359	▲ 183	▲ 33.8%
経常利益	547	362	▲ 185	▲ 33.9%
経常利益率	31.8%	21.5%	-	-
四半期純利益	301	243	▲ 57	▲ 19.1%

品目別の受注売上状況

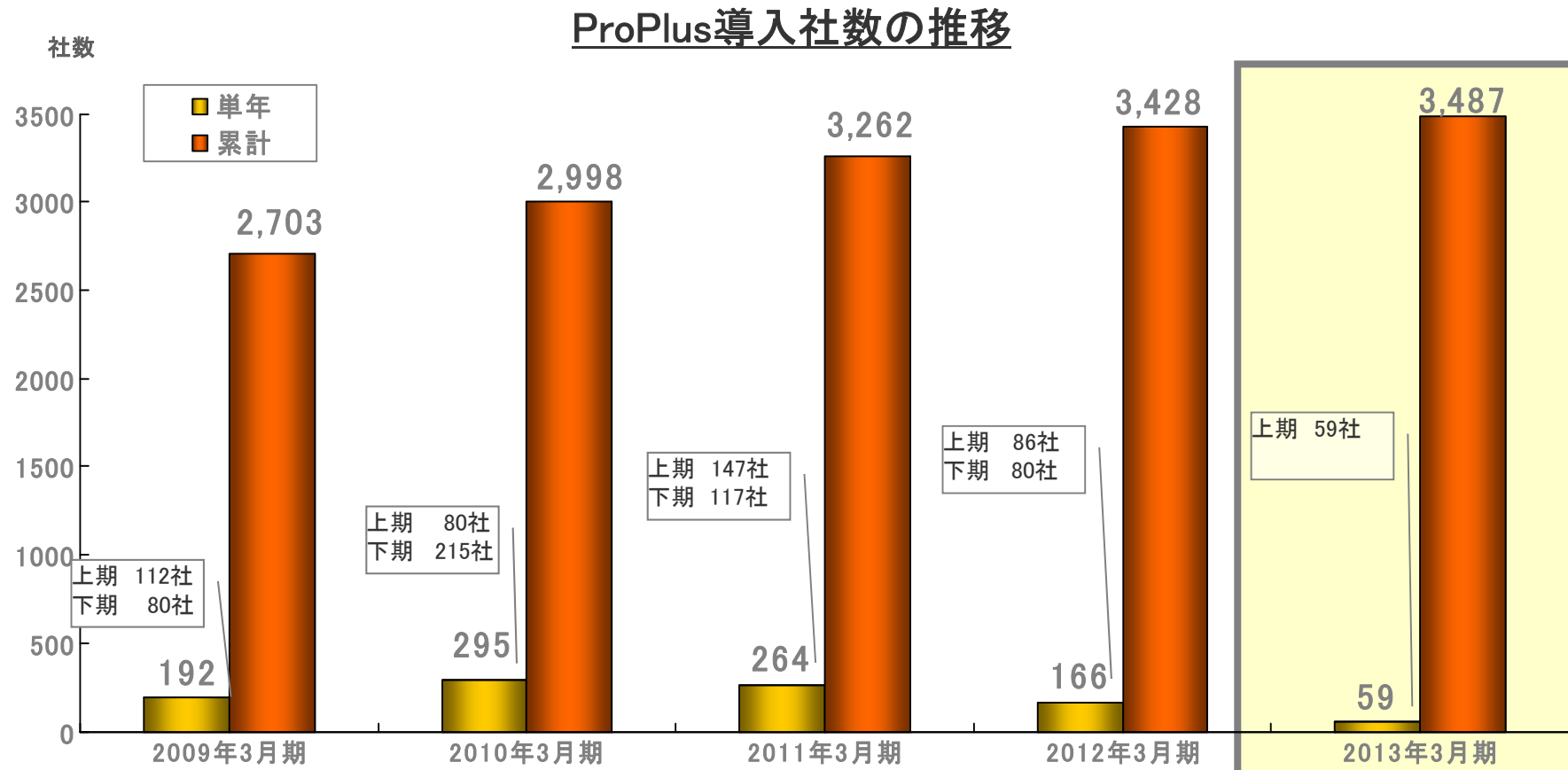
- **パッケージ:** 受注は検討時期の長期化等により、受注高は前年比24.2%減、受注残高は前年比5.9%減となった。
- **保守:** パッケージ導入企業数増加及び保守サービスメニューの拡充による単価の上昇により、前期に引き続き、受注・売上共に増加した。
- **受託開発:** 子会社における新規案件の獲得により増加した。
- **運用管理等:** 顧客の予算の動向から、受注・売上共に減少した。

(単位:百万円)

2013年3月期 第2四半期						
	受注高	前年同期比	売上高	前年同期比	受注残高	前年同期比
パッケージ	918	△ 24.2%	1,050	△ 8.5%	657	△ 5.9%
保守	465	0.9%	445	12.7%	847	62.6%
受託開発	81	5.6%	77	48.4%	30	12.5%
運用管理等	114	△ 8.4%	112	△ 9.2%	1	30.4%
合計	1,579	△15.7%	1,686	△ 2.0%	1,537	23.1%

ProPlusシリーズ導入実績社数

- 小型案件が減少し、中規模案件が増加する傾向から、全体の導入社数の伸びは低い水準となった。



Ⅱ 2013年3月期 通期連結業績予想

業績予想のポイント

システム更新需要の高まりにより、足元の引合状況が大幅に改善していることから、対前年比40.8%の売上高増加を見込む

売上高 **4,800百万円**

- 既存顧客のバージョンアップ案件の獲得
- クラウドサービス提案、業種特化提案による新規顧客の獲得
- 顧客の海外拠点導入や、海外での新規顧客展開を推進
- 販売管理ソリューションの新規顧客の獲得

経常利益 **1,250百万円**

- 新ソリューション立ち上げに向けた研究開発費の増加、開発案件数の増加による外注費の増額を見込む。この結果、経常利益は増加するが利益率は低下する見込。

2013年3月期 業績予想

(百万円)	2012年3月期 実績	2013年3月期 修正計画	増減額	増減率
売上高	3,409	4,800	1,391	40.8%
営業利益	1,088	1,200	112	10.3%
経常利益	1,096	1,250	154	14.1%
経常利益率	32.2%	26.0%	-	-
当期純利益	612	700	88	14.4%

※2012年10月31日付で、当初の年間計画を修正しております。

当期の重点施策

● 固定資産ソリューションのプロモーション強化と
更なる製品力の強化

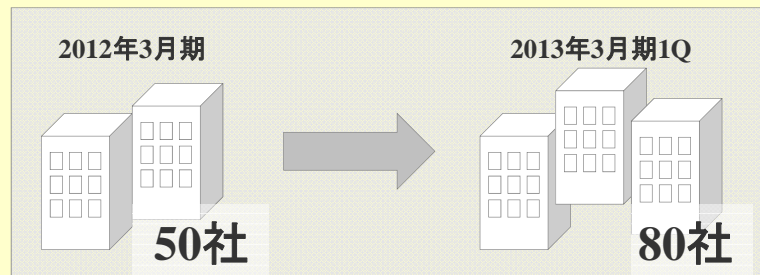
● 海外におけるProPlusユーザーの獲得、各国対応

● 販売管理ソリューションの新規案件獲得

IFRSを見据えたシステム更新需要

● 将来的なIFRS導入に向けた、会計制度の変更に伴うシステム更新の高まり

定率法から定額法への償却方法の見直し



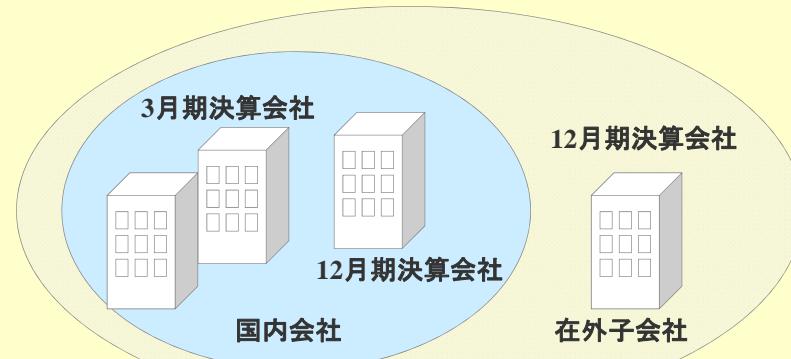
※週刊経営財務 No.3088より

有形固定資産の減価償却方法を定率法から定額法に切り替えたり、定額法の範囲を広げたりする事例増加。

<背景>

- ・グローバル展開で、国内会社と在外子会社の処理の統一化を図る。
- ・IFRSを見据えた償却方法の変更。

グループ会社の決算時期の統一化



IFRSの将来適用を
視野に入れた
決算時期の統一

日本企業におけるグローバル展開の加速

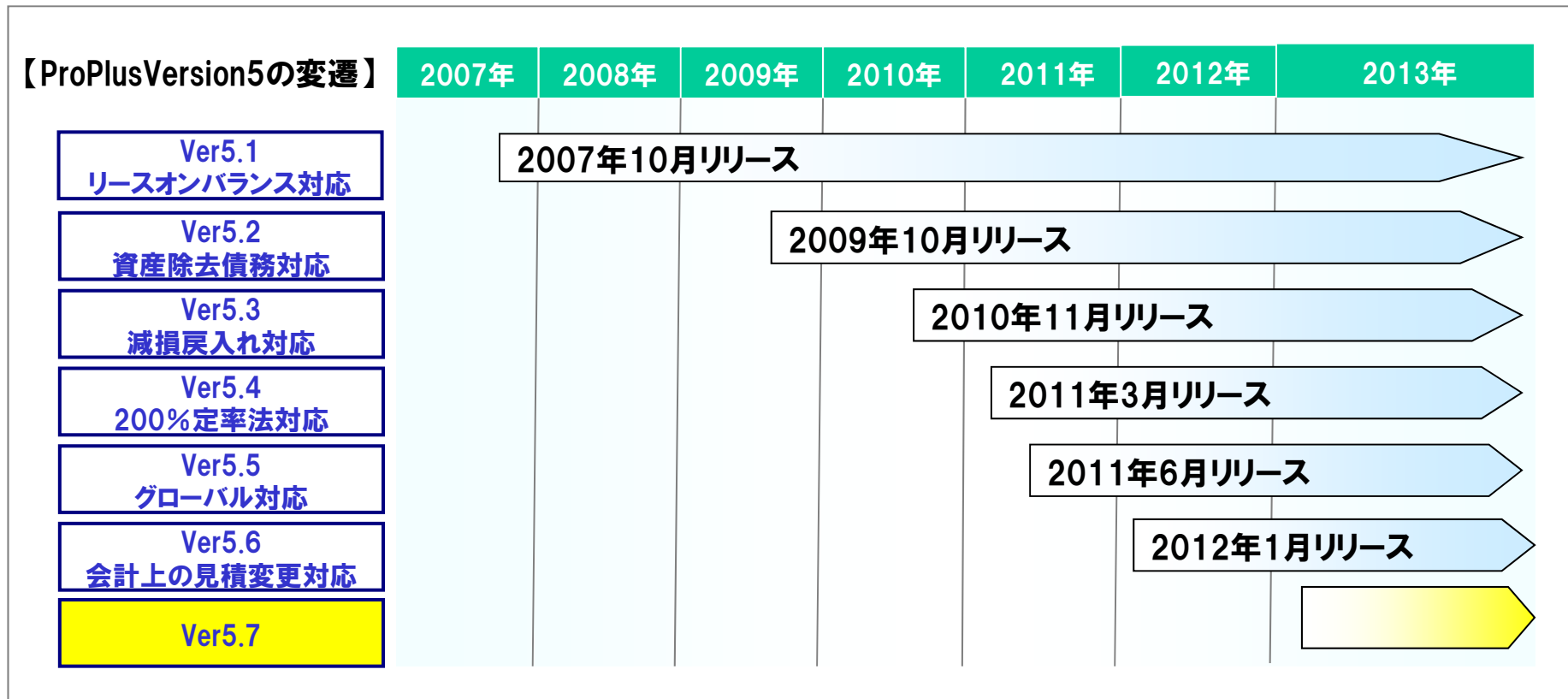
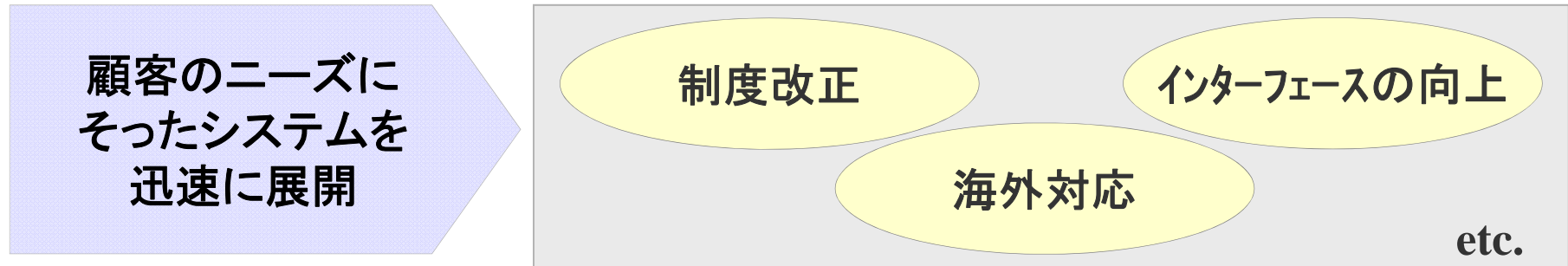
 ProPlus

クラウドサービス

オンプレミス (WEB版)

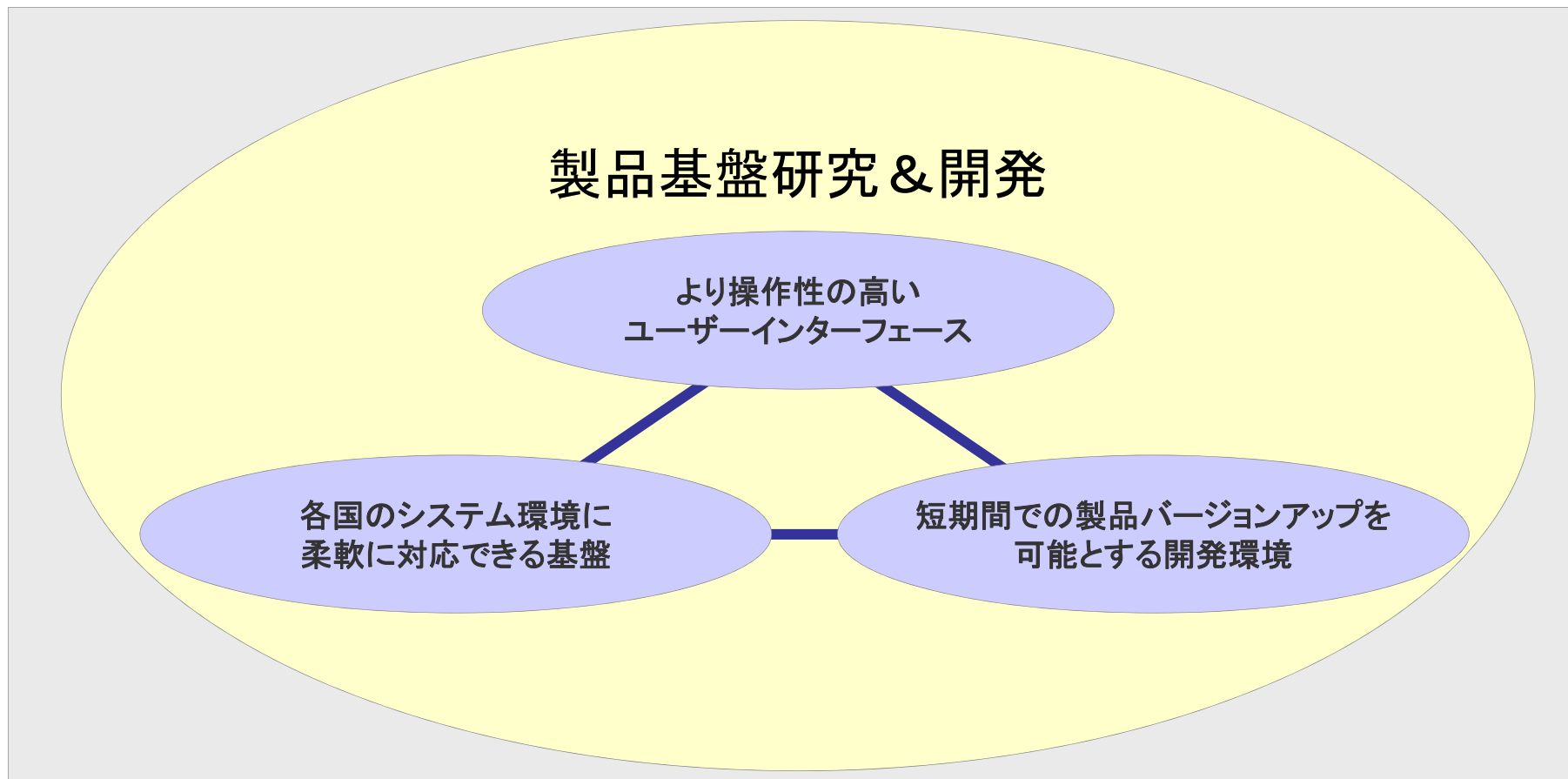
- 日系企業の海外現地法人へのシステム導入
- 海外現地企業を対象としたシステム導入
- 海外案件の対応実績地域の拡大
 - 中国、タイ他、各国の税制に対応した製品対応を実施

製品力強化の取り組み



今期の研究開発の取り組み

- 新ソリューションへの取り組みは当初計画通りに進めている



2013年3月期の配当政策

● 配当額の決定方針

株主還元については、自己資本の充実と収益力の向上を図るとともに、
配当性向30%を基本として、積極的に株主への利益還元に取り組む方針

2013年度3月期は70円の配当を実施予定

※配当予想は当初通り。

1株当たり配当額

(円)	2009年 3月期	2010年 3月期	2011年 3月期	2012年 3月期	2013年 3月期 (予想)
配当金額	60	60	60	60	70
記念配当	-	-	-	-	-
配当性向	52.9%	47.1%	37.1%	35.5%	36.3%

※中間配当は実施していません。

本日はありがとうございました

お問い合わせ先

株式会社プロシップ 管理本部

TEL : 03-5805-6121

Mail : kanri@proship.co.jp

HP : <http://www.proship.co.jp>

本資料に掲載されている情報のうち、今後の業績予想・見通しなどの将来に関する情報はその時点において入手可能な情報に基づいて作成したものであります。従いまして、実際の業績等は、経営環境の変化などにより、計画数値と異なる可能性があります。また、本資料は情報の提供のみを目的としており、取引の勧誘を目的としておりません。